

平成 24 年 9 月 1 日

カヤマチ遺跡の調査概要

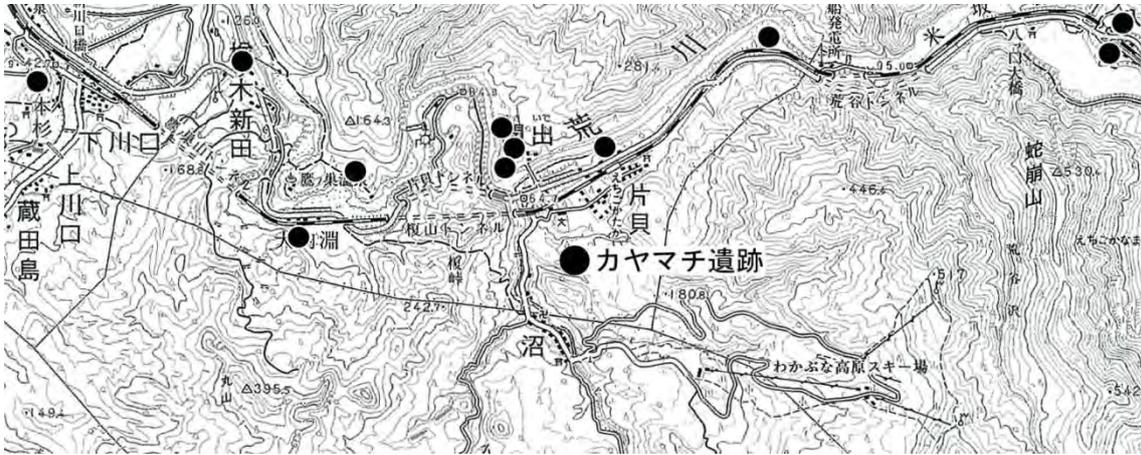
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

はじめに

カヤマチ遺跡（関川村大字片貝・通称カヤマチ）は国道 113 号鷹ノ巣道路建設に伴い、平成 24 年 7 月から 9 月上旬まで発掘調査を行う予定です。遺跡は縄文時代早期後半（今から 9,000～8,000 年前頃）の遺物散布地で、調査面積は 1,020 m²です。

1 遺跡の立地

遺跡は荒川左岸の河岸段丘の斜面、標高約 90～99mにあります。



カヤマチ遺跡位置図（1：50,000）

2 出土した遺物

土器は、底部が尖った尖底土器が 1 個体、貝殻等の縁で、乾ききらない土器の表面を引っ掻いて文様を付けた土器（条痕文系土器）の胴部が 1 個体出土しています。石器は約 80 点出土しています。製品ではへら状石器（東北地方北部を中心に早期中葉に出現する。用途：木や骨を切る・削る。あるいは皮なめしに使用する）が 6 点出土しています。へら状石器は、頁岩や珪質頁岩といった硬い石を使用しています。これらの石材は近くの荒川から採取できます。ほかに特殊磨石（三角柱・四角柱・楕円柱状などの河原石を素材とし、稜の部分に細長い磨面を持つもの。用途：植物をすり潰す。）が 1 点、不定形石器（剥片の一部に刃を付けたもの）が十数点あります。最も多いのは、石器製作のときに生じる剥片です。

まとめ

今回の調査範囲は、急傾斜なため遺物が散発的に出土したのみでした。縄文時代早期は、それまでの獲物を追っての移動生活から、定住生活が始まった頃とされています。カヤマチ遺跡に土器や石器を残した人々の住居等は、調査範囲外にあると考えられます。関川村には旧石器時代から人々が住んでいたことが明らかになっています。しかし、これまで縄文時代早期の遺跡だけが見つかっていませんでしたが、カヤマチ遺跡の発見により歴史の空白を埋めることができました。

今後は、出土した遺物を詳細に検討し、当時の人々の生活の様子を明らかにしたいと考えています。